

JACET中国・四国支部 Newsletter

第 29 号

目次

1. 巻頭言	支部長 岩中 貴裕	pp.1-2
2. 2022 年度 春季研究大会報告	事務局幹事 寺嶋 健史	p.3
3. 2022 年度 第 1 回支部役員会報告	事務局幹事 寺嶋 健史	p.3-4
4. 2022 年度 支部研究会 OPP イベントについて	OPP 代表 三熊 祥文	p.4
5. 2022 年度 秋季研究大会発表応募要領		p.5
6. 2022 年度『JACET 中国・四国支部研究紀要』第 20 号投稿募集		pp.5-6
7. 事務局だより		pp.6-7
編集後記		p.7
【重要】ニュースレター (NL) 配信についてお願い		p.7

1. 巻頭言

中国・四国支部長 岩中 貴裕

支部会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。前期の授業もほぼ終わりを迎えておられることと思います。

皆さんは機械翻訳を使ってみたことがありますか。最近、私は自分の学生に、英語で原稿やレポートを作成する際は、機械翻訳と AI による文法チェッカーを使用するよ

うに勧めています。多くの学生が Google 翻訳、または DeepL を用いてプレゼン等の草稿を作成し、Grammarly を用いてチェックするという形で AI を上手に利用していません。授業内で私が配布した英語の資料も同じように翻訳ソフトを用いて内容を理解しているようです。

デジタルネイティブである今の学生は習熟が早いです。私よりも手際よく AI を使いこなしています。

10 年前の私は、学生には機械翻訳を使わないようにという指示を出していました。その判断は間違っていなかったと今でも思っています。当時の学生が機械翻訳を使って作成して提出した英語のエッセイは、読むに堪えないものでした。

機械翻訳に飛躍的な進歩がもたらされたのは 2016 年のことです。この年に Google ニューラル機械翻訳 (Google Neural Machine Translation) が発表されました。それ以前の Google 翻訳は、統計的機械翻訳という手法を用いていました。統計的翻訳は、事前に用意された学習用のテキストデータから統計モデルを構築し、翻訳を行うものです。「Google 翻訳は役に立たない」と経験的に思われている方は、おそらくこの頃の Google 翻訳のイメージを持たれていると思います。

ニューラル機械翻訳は、人の脳神経回路が情報伝達を行う仕組みを真似たものです。人工的なニューラルネットワークが情報を収集して自ら学習しながら、ある語の意味として正しい可能性の高い訳語を当てはめていきます。驚くべきことは、現在の機械翻訳は我々が指示を出さなくても自律的に学習し成長していくということです。

先日、早稲田大学の李在鎬教授のお話を聞く機会がありました。「人工知能と日本語教育の共生:機械翻訳とリーダビリティ」という題目で、ICT や人工知能を日本語教育でどのように活用するかという内容でした。

では実際に AI 翻訳の実力を確認してみましょう。最近読んだある論文を DeepL で翻訳してみました。(1)が元の英語で(2)が日本語訳です。

(1) This paper describes a study into learners' attributions for success and failure in learning English as a foreign language. The study investigated perceived reasons for successes and failures on actual

language learning tasks in both oral communication and reading classes, looking at how learners judge their successes and failures, and their range of attributions.

(2) 本論文は、外国語としての英語学習における学習者の成功・失敗の要因に関する研究である。この研究では、オーラル・コミュニケーションとリーディングの両クラスにおいて、実際の言語学習タスクの成功・失敗の理由を調査し、学習者がどのように成功・失敗を判断しているか、またその帰属の幅を調べている。

この和訳に対してどう思われますか。評価はそれぞれだと思います。私は機械翻訳がここまで訳してくれるのであれば、授業時間内で内容理解のために時間をかける必要はないと思っています。

機械翻訳が進歩したからと言って我々の仕事なくなるわけではありません。機械にできることは機械に任せれば、私たちはより高度な内容を教えることができます。読んだ内容を自分の言葉でまとめ直して英語で紹介する、読んだ内容に対して自分の考えを英語で述べる、英語で意見交換を行う等の活動に授業時間の多くを費やせるようになりました。

さて最後になりますが、学会について情報共有させていただきます。第 61 回国際大会は 8 月 24 日 (水) ~26 日 (金) の日程で開催されます。昨年に引き続きオンラインでの開催となります。お申し込みがまだの方はぜひ、以下のサイトよりお申し込みをお願いします。

<https://jacet.org/cf-registration/registration/>

秋季支部研究大会は、10 月 22 日 (土) に開催されます。こちらもオンライン開催の予定です。申し込み方法についてはこのニューズレターの「5. 2022 年度 秋季研究大会発表応募要領」をご確認ください。

(山口県立大学)

2. 2022 年度 春季研究大会報告

事務局幹事 寺嶋 健史

2022 年 6 月 4 日（土）に、第 1 回中国・四国支部春季研究大会が開催されました。新型コロナの影響によりオンラインでの開催となりました。大会には計 20 名の参加がありました。

総会と開会式に続き、研究発表が 3 件行われました。1 件目は西谷工平先生（就実大学）と中崎崇先生（京都橘大学）による「機械翻訳における日英の複数性をめぐる一考察」（A Consideration on Japanese and English Plurality in Machine Translation）、2 件目は藤居真路先生（金沢学院大学）による「英語の授業動画の視聴に対する小学校教師志望の学生の態度 — 期待価値理論の視点から—」（Attitudes of Students Aspiring to Become Elementary School Teachers Toward Watching English Lesson Videos: Based on Expectancy Value

Theory）、3 件目は二五義博先生（山口学芸大学）による「CLIL は日本が起源であることの仮説検証」（Examining the Hypothesis that CLIL Originated in Japan）でした。

今回の発表件数は多くは無かったものの、内容は機械翻訳にできることと人の介入が必要なこととの区別、英語の授業動画を用いた教師志望の学生の授業や教師になることに対する態度、明治時代の CLIL の実情から学ぶこれからの CLIL など実に多様であり、発表後の質疑応答も活発に行われました。

何かとお忙しい中、本研究大会で発表頂いた皆様、参加していただいた皆さまにお礼を申し上げます。

寺嶋健史（松山大学）

3. 2022 年度 第 1 回 支部役員会報告

事務局幹事 寺嶋 健史

2022 年 6 月 4 日（土）に 2022 年度第 1 回支部役員会が ZOOM を使って開催され、2022 年度の活動、2022 年度中国・四国支部人事、2023 年度の事業計画について審議を行いました。

2022 年度（後期）および 2023 年度事業計画についてお知らせいたします。

1) 2022 年度秋季研究大会

日程：2022 年 10 月 22 日（土）
場所：オンラインで実施の予定

2) 2022 年度 Oral Presentation & Performance (OPP) Event

日程：2022 年 12 月 11 日（日）
または 18 日（日） 予定
場所：未定

3) 2023 年度春季研究大会

日程：2023 年 6 月 3 日（土） 予定
場所：安田女子大学（広島県広島市）

4) 2023 年度秋季研究大会

日程：2023 年 10 月 14 日（土）
または 21 日（土） 予定
場所：松山大学（愛媛県松山市）

5) 2023 年度 Oral Presentation &

Performance (OPP) Event

日程：12月中旬

場所：未定

- 6) 支部紀要・支部ニューズレター
・『大学英語教育学会中国・四国支部紀

要』(第20号)

発行：2023年3月31日(予定)

・支部ニューズレター

発行：2022年7月31日(第29号)

2023年1月20日(第30号)

4. 2022年度支部研究会OPPイベントについて

OPP代表 三熊 祥文

早々に梅雨が明けたと思ったら梅雨末期を思い起こさせる豪雨に見舞われ、コロナの状況や政情、はては国際情勢まで不安定な中、一部では祭りへの行動制限は今の所若干緩やかとなり、祭りの準備の時期となりました。OPP研究会では今年も Oral Presentation & Performance (OPP)を開催し、英語コミュニケーション能力の向上に情熱を燃やす学生を支援いたします。

教育的活動を祭りになぞらえると、「いつか国際的に活躍」などというぼんやりとした目標とは異なる、中・短期的目標設定が祭りということになり、そこに向かう準備が教育活動ということになります。学習者の立場から見れば、具体的に目指すことができる目標が「祭り」であり、そこに至るためのあらゆる取り組みが「学習」ということとなります。祭りの特徴として、まずそれがコミュニティにおける自己のアイデンティティ確認のプロセス(「自分は英語で自己表現するコミュニティの一員である」)になっていること、次にその祭りは基本的に周期的に繰り返される催しである、ということが挙げられます。

昨年は2020年度のOPP中止からオンラインを囓らせることによりなんとか復活して実施に漕ぎ着けることができました。「周期的な繰り返し」を担保するため、今年もど

んな形でも実施をしたいと考えております。今の所、2019年以来の対面実施ができることを念頭に計画をしていくこと予定です。

OPPでは会員の皆様のご参加をお待ちしております。会場は现阶段で未定となっておりますが、8月末まで申し込みを受け付けますので、奮ってご応募ください。

募集期間 8月31日(土)まで。
開催日時 12月11日 or 18日(日)
[変更の可能性あり]
10時～17時頃まで
開催場所 未定

募集条件

1. JACET 支部会員であればどなたでもエントリー可。
2. 先生方が指導されている学生さんによるプレゼン。
 - ・各大学の発表時間は最長20分まで
 - ・テーマ、発表形式は自由
 - ・先生の発表ご参加も歓迎
3. 受付は先着順で、8校程度まで。

お問い合わせはメールにて代表者へ。
y.mikuma.ir@cc.it-hiroshima-ac.jp

(広島工業大学)

5. 2022年度 秋季研究大会発表募集要領

2022年10月22日(土)に2022年度秋季研究大会が開催される予定です。下記のとおり、研究発表の募集をいたします。奮ってご応募ください。

支部秋季研究大会

日時：2022年10月22日(土)

- A) 応募情報(英語での併記もお願い致します)
- (a) 発表題目(Title)：日本語と英語
 - (b) 種別(Style)：自由研究発表、実践報告、事例研究など
 - (c) 氏名(Name)
 - (d) 研究領域(Research area)
 - (e) 概要(Abstract)：目的、背景、仮説、方法、結論、引用文献など。日本語の場合は600字以内、英語の場合は250 words以内とする。
 - (f) 所属(Affiliation)
 - (g) 使用機器(Equipment needed)

(h) 連絡先(Contact address)：メールアドレスなど

B) 申込応募期間

■2022年9月30日(木)

午後11時59分まで

■申込先

下記支部HPの申込フォームをご利用ください。

研究発表及び参加申込みフォーム

<https://ws.formzu.net/dist/S23969810/>

(7月30日～9月30日まで申込み可能)

C) プログラムおよび発表スケジュール

詳細は支部会員ML、および支部HPでお知らせします。(支部会員MLへのアドレス追加をご希望の方は事務局までご連絡ください)。

■問い合わせ先

事務局幹事 寺嶋 健史

tterashi@g.matsuyama-u.ac.jp

6. 2022年度『JACET中国・四国支部研究紀要』第20号

投稿募集

質的研究や量的研究など様々な観点に基づく論文、リサーチ・ノート、実践・研究報告、およびブックレビューの4つの分野の研究発表を掲載する場として、年一回3月に支部紀要を刊行しています。

応募資格は、所定の学会費を完納した支部会員とします。ただし委嘱原稿については、この限りではありません。

投稿論文は、原則として過去2年以内に開催された全国大会および支部大会で発表を行った研究にもとづくものが望ましいです。

審査は、委嘱原稿を除き、紀要編集委員

会が指名する審査員が担当し、査読の結果を踏まえて編集委員会が採用の可否を決定いたします。

JACET中国・四国HPにある投稿規程をご参照の上、奮ってご応募ください。

なお、発行までの日程は原則として下記のとおりです。

■論文投稿申込締切り：9月末

■投稿原稿締め切り：10月末

■審査結果通知：12月末

■修正原稿締め切り：1月末

■刊行：3月末

※年次国際大会や支部大会で口頭発表されていない場合でも、紀要の投稿規程により、論文を投稿することはできます。

投稿先：支部HP フォームズから
仮題目提出
<https://ws.formzu.net/fgen/S42433433/>
投稿原稿

<https://ws.formzu.net/fgen/S47515527/>

お問い合わせ：紀要編集委員会委員長
中山 晃（愛媛大学）

E-mail:
nakayama.akira.mm@ehime-u.ac.jp

7. 事務局だより

2022年1月から7月までの新入会員名をご紹介します。

★新入会員紹介★

Perkins, Gareth (香川大学非常勤)
高橋有香
(神戸松蔭女子学院大学大学院生)

Boutorwick, Thomas
田中典枝 (島根県立大学)
Swanson, Mark (山口県立大学)
(敬称略)

皆様、どうぞよろしく願いいたします。

2022年度の支部人事および本部運営委員をお知らせいたします。支部活動発展のために力を尽くしますので、よろしく願いいたします。

★支部人事★

【支部役員】

支部長 岩中貴裕 (山口県立大学)
副支部長 高橋俊章 (山口大学)

支部幹事 (*は事務局幹事)
寺嶋健史* (松山大学)
山中英理子 (広島国際大学)

支部会計担当者
小崎順子 (川崎医療福祉大学)

支部研究企画委員 (25名)

五百藏高浩 (高知県立大学)
池野 修 (愛媛大学)
岩井千秋 (広島市立大学)
岩中貴裕 (山口県立大学)
ウィリー・イアン (香川大学)
上西幸治 (福山大学)
折本 素 (愛媛大学)
カワモト・ジュリア (愛媛大学)
小崎順子 (川崎医療福祉大学)
小山尚史 (岡山大学)
高垣俊之 (尾道市立大学)
高橋俊章 (山口大学)
田淵博文 (就実大学)
ダンテ・ローレンス (就実大学)
寺嶋健史 (松山大学)
中住幸治 (香川大学)
中山 晃 (愛媛大学)
二五義博 (山口学芸大学)
平本哲嗣 (安田女子大学)
松岡博信 (安田女子大学)
三熊祥文 (広島工業大学)
三宅美鈴 (広島国際大学)
森谷浩士 (岡山大学)
山川健一 (安田女子大学)
山中英理子 (広島国際大学)

【本部委員】

理事 岩中貴裕 (山口県立大学)
総務委員会 (支部事務局幹事)
寺嶋健史 (松山大学)

山中英理子 (広島国際大学)
財務委員会 (支部会計担当者)
小崎順子 (川崎医療福祉大学)
国際大会組織委員会本部
山川健一 (安田女子大学)
『JACET 通信』委員会
松岡博信 (安田女子大学)
学術出版委員会紀要担当
平本哲嗣 (安田女子大学)
学術出版委員会 Selected Papers 担当
平本哲嗣 (安田女子大学)

セミナー事業委員会
田淵博文 (就実大学)
研究促進委員会
二五義博 (山口学芸大学)
学術交流委員会
ウィリー・イアン (香川大学)
大学英語教育学会賞運営委員会
池野 修 (愛媛大学)
学術出版委員会 Selected Paper 担当
中山 晃 (愛媛大学)
平本哲嗣 (安田女子大学)
寺嶋健史 (松山大学)

【編集後記】

梅雨がいつの間にかどこかへ行ってしまい、暑い日が続く季節になりました。早いものでもう 2022 年度も半分以上が過ぎてしまいました。収束に向かってははずの新型コロナが再び広がりを見せ始め、夏の風物詩である祭りや花火大会も中止になる傾向があるようです。対面で開催されつつあった様々な研究大会も再びオンラインでの

実施に戻ってしまわないように、今年の梅雨と同じようにコロナもいつの間にかどこかへ行ってしまっしてほしいものです。

10月の秋季研究大会については、みなさまと「対面で」お会いできることを楽しみにしていましたが、オンラインで実施する予定です。

【重要】 JACET (大学英語教育学会)

中国・四国支部ニューズレターの配信について

支部長 岩中貴裕 (山口県立大学)

中国・四国支部では、支部会員の皆様により迅速な情報提供を図るべく、2014年度よりメールにてニューズレターを配信しています。お知り合いの会員の中で、まだ登録をされていない方がおられましたら、下記要領にて登録をされますよう、お知らせください。ご協力の程、どうぞよろしくお願いいたします。

1. 支部 HP (<http://jacet.edu.yamaguchi-u.ac.jp>) にアクセスする。
2. 入力フォームのサイトのページ (<http://ws.formzu.net/fgen/S61768122/>) に入る。
3. ウェブの入力フォームに以下の【入力情報】を入力する。

【入力情報】

・支部のメーリングリストに登録を希望しますか？

- すでに登録している
- 希望する
- 希望しない

(※すでに事務局からのメールが届いている方は登録済みです。)

・登録を希望するメールアドレス

※ニューズレターはメール送信とともに、支部ホームページでも公開します。

なお、上記の作業についてご不明な点がありましたら、事務局幹事の寺嶋までお問い合わせください。

アドレス : tterashi@g.matsuyama-u.ac.jp

メールアドレスを変更された方は、事務局までお知らせください。

JACET 中国・四国 Newsletter 第 29 号

2022 年 7 月 31 日 発行

発行人 : JACET 中国・四国支部 支部代表 岩中 貴裕

編集 : JACET 中国・四国支部 事務局幹事 寺嶋 健史

発行所 : 〒790-8578 愛媛県松山市文京町 4 番 2 号 松山大学 人文学部

連絡先 : E-mail: tterashi@g.matsuyama-u.ac.jp